

再現！江差の五月は江戸にもない
～“いにしえ街道”の景観を生かすまちづくり～

(北海道・檜山郡江差町)

江戸時代からの歴史的建造物を生かす街並み『いにしえ街道』が整備され活動を始めてから18年目となります。北前船による繁栄を謳った「江差の五月は江戸にもない」を再現するため、地域資源を大切に持続可能なまちづくりを組合員数計35名で行っています。街道沿いの店主や住民が、先祖から伝わる話を自分たちの言葉で語り継ぐ『百人の語り部』や歴史・食・技の交流拠点『活蔵プロジェクト』も行っています。花嫁行列など各種イベントによる認知度も増し、更に近隣小中学校の総合学習の場としても活用されています。



室町時代からの伝承技術「からむし生産」伝承とからむし織姫

(福島県・昭和村)

昭和村は、本州唯一のからむし生産地で、約600年もの昔から、純粹かつ高品質の原麻が、代々受け継がれてきました。当該施設では、約20年前より毎年5月～翌年3月までの11ヶ月間、からむし織の体験を行い、後継者の育成を図っています。こういった取り組みによって、多くの村民が地域活性化に関わるとともに、からむし織の体験生が県外から当地へ定住するようになってきました。今後、村外から移住してきた人々からの、新たなアイデア等によって、村全体の更なる活性化が期待されています。



北区・子どもの水辺

(東京都・北区)

良好な生態系の保持と多世代に渡る人々の自然環境学習の場を管理運営する為、市民団体の働きかけが実り、平成15年に協議会を設立しました。対象地は計画段階から携わり、多くの意見が反映されています。市民団体が中心となった自然観察会、学校活動の支援、植物刈り等を行っており、その中でも体験学習は昨年度年間37回行われ、1,748名の参加がありました。水辺の清掃活動では年間延べ1,419名が参加しています。平成25年度の活動では年間106回、合計延べ4,000名にも及び、活動の輪が広がっています。



東京湾海水浴場復活プロジェクト -東京都区内で約50年ぶりに海水浴場が復活-

(東京都・江戸川区)

東京生まれの子供達が海で遊び・学べる環境を再生する為、平成18年に会を設立し、現在は会員210名で活動しています。平成20年に東京湾海水浴場復活プロジェクトを発表し、東京都と協働で水質浄化実験やアカエイの侵入防止網の設置を行いました。また区民対象の自然体験イベントを実施し、平成24年には約8,500人が参加しました。その結果、平成25年に東京都区内で約50年ぶりに海水浴場が復活し、13日の開催期間で約38,000人が来場しました。今年度はお台場でも海水浴体験が実施され、他地域への波及も見られます。



中川運河水辺再生への挑戦(魅力ある水辺空間の創出)

(愛知県・名古屋市)

水運物流の中心として栄えた中川運河を再生するために、運河周辺の水辺空間を活用したアートイベントを年に2~4日間開催。また、平成21年から近隣住民との協力による運河周辺の清掃活動(年に2回)や運河沿いにコスモスの植栽を行うコスモスプロジェクトを実施し、中川運河の魅力創出に向け継続的な取組を行っています。さらに小中学校でのアートワークショップの開催により、次世代を担う学生たちに豊かな感性を育む取組を継続的に発展させています。地元主体で水辺の空間を取り戻す活動の先駆的存在となっています。



豊橋の路面電車(愛称「市電」)を活かしたまちづくり

(愛知県・豊橋市)

とよはし市電を愛する会は、市電に関心を持つ市民などが「市電を活かしたまちづくり」のテーマのもとに平成2年に設立。路面電車の利用者が減少する中、交通事業者と行政を繋ぐ役割を担ってきました。中心市街地における新電停設置の要望活動を約10年間、地元商店街とともに行い実現、また、LRV(全面低床電車)導入に向けた募金活動にも貢献しました。4月10日を「市電の日」として趣向を凝らしたイベントを毎年開催しているほか、「市電のある風景」を刷り込んだカレンダーや絵ハガキの作製、機関誌「市電文化」の発行など、多彩な活動を展開しています。



宮川流域エコミュージアム

(三重県・伊勢市、多気町、明和町、大台町、玉城町、度会町、大紀町)

宮川流域案内人の会は、宮川を中心とした流域全体の自然、歴史、文化、産業を活用して年間80回ほどの行事を企画運営、また散策路の整備や道標の設置、ゴミ拾いなどの環境整備も実施しています。行事への参加者は平成18年には1679人、平成25年には3832人と年々増加し、リピーターも増え地域の活性化に繋がっています。案内人として現在316名が登録。案内人の学習会や全国大会への参加など活動のレベルアップが図られています。宮川流域全体で連携した大規模な取組により、流域全体の活性化に繋がっています。



安曇川河畔林の竹林の保全をエコツアーにした取り組み

(滋賀県・高島市)

安曇川では江戸時代からはん濫を防ぐために河畔に植えられた竹を使った扇骨(扇子の紙以外の部分)の生産が行われてきましたが、輸入材の増加等から竹林が放置され荒廃が進みました。そこで、平成11年に地域交流創出を目的に発足した「湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部」(197名)が平成19年に竹林整備部門を設立。4,500㎡の荒廃竹林を借り受け、竹林整備・自然観察・食育等をエコツアープログラム化した「新竹取物語」を展開。平成25年度は646人の参加がありました。活動費は補助金に頼ることなく、その参加費から捻出しています。竹林の適切な維持管理により、山野草や昆虫が増えるとともに、洪水氾濫防止や不法投棄対策として効果がありました。



ストリートライブ能で美しいまちづくりと地域の賑わいづくり

(大阪府・大阪市)

公益財団法人山本能楽堂は大阪のまちに美しい都市空間を創出し、偶然居合わせた不特定多数の人に能の魅力を知ってもらうため平成16年より公共空間におけるストリートライブの活動を開始しました。そして、平成17年に「水の大切さ」を喚起し水都大阪の魅力を周知するため、水の浄化をテーマに環境問題について考える新作能「水の輪」の活動を開始しました。水辺の拠点として整備された公共空間で再演を繰り返し、平成25年には「中之島GATE」で10回目の公演を実施した。本活動によって、水辺空間を活用した賑わいが創出され同時に「水の大切さ」が喚起されました。



庭園都市おかやま 緑と水の道づくり

(岡山県・岡山市)

平成19年、ESD活動が盛んになっていた京山地区で行われた「市長と語る会」での中学生の提案をきっかけに、整備の検討が開始された。ワークショップを通じて整備計画・管理運営計画を策定し、平成22年度に「緑と水の道」整備構想を取りまとめた。これを受け、「市民提案協働事業」が事業を実施されました。

整備後は、管理運営に関する協定を締結して、日常的な管理や水辺の環境学習会の実施などを行っています。平成26年の「環境てんけん」には、130人の参加がありました。



しまなみ海道を活かした自転車まちづくりプロジェクト ～地元にも根ざした、持続可能な地域おこし～

(愛媛県・今治市)

「NPO法人シクロツーリズムしまなみ」は、愛媛県今治市上島町の島嶼部をメインフィールドに、「自転車地域おこし」を目的として、自転車ツアーのコーディネート、安全啓発、人材育成等、自転車旅行者受入を実施しています。

平成19年に前身となる「しまなみスローサイクリング協議会」を発足、その後平成21年にNPO法人化しました。

自転車ツアーのコーディネートに加え、受入環境の整備として「自転車の休憩所“しまなみサイクルオアシス“」を実施するなど地域全体へ活動範囲を広げており、旅行者と島の人との温かい交流により都会とは異なる豊かさを感じてもらうことを願って、今後も活動を続けていきます。



四万十川と共存するツルの里づくり事業

(高知県・四万十市)

ナベヅルマナヅル等のツルが越冬可能な条件整備と地域の環境保全を目的に、平成18年3月に設立された「四万十ツルの里づくりの会」は、里山環境づくりを進めることで地域の活性化も目指し地域とともに活動しています。

約3haの河川を整備した中山地区や、約6haの休耕田を活用した江ノ村地区などツルのえさ場・ねぐらづくりを整備するとともに地元小中学校と連携しふるさとに誇りを持ってもらいたいと願っています。平成25年には人工整備池では日本で初めてツルの越冬に成功しました。地元小中学校によるツルの体験学習会、つるの里祭り、ワークショップ、会報の発行など幅広く活動を進めています。



いのち育む豊かな湿地

(佐賀県・唐津市)

アザメの会は、唐津市相知町の松浦川にアザメの瀬自然再生事業により氾濫源(湿地)が再生されたのをきっかけに、川と人との絆を深めるための活動を行うため、平成14年に発足しました。

アザメの瀬の生き物とふれあいながら松浦川流域のすばらしい自然を次世代へ継承するため、魚取りや田植え、水生生物調査、稲刈り、収穫祭などの行事を行っています。これらの活動を通して、昨年度(平成25年度)は、年間17回、延べ524人もの方が体験学習等の行事に参加し、松浦川の自然と触れ合いました。



芝桜による噴火災害からの復興

(長崎県・島原市)

当該地区は、平成5年に雲仙普賢岳噴火災害によって甚大な被害を受けました。災害時の全国からの支援に感謝し、元気になった島原を見てもらおうと、平成21年に「芝桜公園をつくる会」を設立し、噴火災害の跡地9ヘクタールの荒野に、芝桜公園をつくる事を目指しました。現在、植栽予定地3haのうち、2.3haに約27万株以上を植栽。月2回行われる植栽・除草作業は、親子連れなど、これまでに延べ11,240名が参加しています。昨年度(平成25年度)に芝桜公園に、遠くは関西地区や九州各地から35,000人もの方が訪れました。



川と街道の歴史を元に先祖伝来！手づくりの地域興し(下町惣門会) (熊本県・山鹿市)

平成12年、テレビドラマで下町商店街がロケ地となったことがきっかけで、ガイド付きの街案内ツアー「米米惣門ツアー」の運営を始めました。ツアーは、各店舗の店主らがリレー方式で行なうなど、歴史的地区環境整備街路事業で整備された街並みと地区の歴史を方言を交えながら分かりやすく紹介しています。また、会員同士で情報交換や批評会等を若い階層を交え開催するなど、ツアーの質の向上や後継者の育成にも努めています。年間約5,000人の観光客を受け入れており、学校の社会科見学のコースにもなっています。



飛森谷戸～里「都」山づくりを楽しもう～

(神奈川県・川崎市)

地域の宝である森や虫などの自然を守り、子供達の自然環境学習の場を残す為、平成8年に会を設立し、現在30名の会員で活動しています。定期的に広場のゴミ拾い、草刈り等の維持管理作業を行っているほか、田んぼの整備、ホタルの保護活動を行っています。活動のPRのために緑地内で音楽イベントを年2回(合計27回、14年間)実施し、毎回100～200名の参加があり、今までで延べ4,000名以上が参加しています。一般賞受賞後活動が拡がり、市の生田緑地整備事業に合わせて活動範囲も年々増えています。近年は、子供会や小学校との連携により、子供達の参加が増加しています。



【平成13年度 手づくり郷土賞(地域活動部門)受賞】

オオムラサキの里づくり

(山梨県・北杜市)

オオムラサキの生息地を次世代に残す為、平成8年に会を設立し、現在30名の会員で活動しています。当初は自然体験学習を主に行っていましたが、一般賞受賞後活動が拡がり、平成20年から里山林の下刈り、間伐、植樹活動を開始、現在下刈り面積は20ha、植樹は5万本に達しています。また間伐材を利用した薪や炭の製造・販売を行っているほか、自然体験等のプログラムも増加しています。これらの活動には地元企業、JR貨物、川崎市のNPO等も参加するようになっており、昨年は合計3,000名参加しています。こうした活動が実を結び、ここ数年オオムラサキの数が増えています。



【平成14年度 手づくり郷土賞(地域活動部門)受賞】

道の駅 千枚田ポケットパーク

(石川県・輪島市)

国指定名勝「白米千枚田(しろよねせんまいだ)」と隣接し、一体となった道の駅千枚田ポケットパーク。白米千枚田を維持するため地元の有志が集い棚田保全活動や「オーナー制度」「あぜのきらめき(LEDイルミネーション)」「千枚田結婚式」といった観光イベントを実施しています。

平成19年度にスタートしたオーナー制度は当初54名の会員数だったが、現在173名と年々増加している。「あぜのきらめき」は観光客への効果が大きく、開催前に比べて約10倍となっています。



【平成4年度 手づくり郷土賞(くらしに根づく施設)受賞】

高校レストラン「まごの店」

(三重県・多気町)

相可高校調理クラブは「即戦力となる料理人育成」を目的に活動。多気町、ふるさと村がこの活動を支援し、研修施設として、全国で初となる高校生レストラン「まごの店」が誕生。食材費や日常管理費、仕入れ等全ての運営を調理クラブで実施しています。食材は地産地消を基本とし、地域の活性化に繋がっています。また、イベント出店、料理教室の開催、企業とのコラボ商品開発等の活躍により知名度が上がり、ふるさと村は毎年25万人が訪れる観光拠点となっています。「まごの店」は料理人を目指す子供たちの目標となっています。



【平成18年度 手づくり郷土賞(地域整備部門)受賞】